

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">開隆堂（美術）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各題材で知識や技能に関する目標が示され、巻末には「学びの資料」が設けられ、主体的に学ぶことができるよう配慮がなされている。 ・ 多様な表現の作品や制作過程が示され、豊かに発想し構想を練りながら、主題を生み出せるよう配慮がなされている。 ・ 生活や社会の中の美術や美術文化が紹介され、美術を愛好し、心豊かな生活を創造できるよう配慮がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 題材の様々な展開を示す作品例と、色や形、造形的な特徴などが紹介され、各学年の発達段階に応じた表現ができるよう配慮がなされている。 (2) 作者や作家の言葉、制作過程が紹介され、生徒が表現の見通しをもち、イメージを膨らませながら、発想や構想につなげられるよう工夫がなされている。 (3) 「学習の流れ」が示され、生徒作品に添えられた「作者の言葉」から、色や形のイメージをもち、造形的な特徴に気付いて、自他の表現に関心をもって取り組めるよう工夫がなされている。 (4) 安全面で配慮する活動に、注意喚起マークが示され、写真やイラストで用具の安全な使い方が分かるよう配慮がなされている。 (5) ユニバーサルデザインフォントが採用され、作品の一部が原寸大で掲載されるなど、見やすさとともに筆致や絵肌の細かな表現がより身近に感じられるよう配慮がなされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 巻頭に小学校図画工作から美術へのつながりや各領域の学びの意義が示され、中学校美術を俯瞰し、系統的に学習できるよう配慮がなされている。 (2) 各題材に鑑賞のページが配置され、生徒が自己の表現を振り返り、自己の表現を上げたり、他者の作品のよさに気付いたりできるよう工夫がなされている。 (3) 各題材に「学習のポイント」「学習を進めるためのヒント」が示され、「見方・考え方」の視点をもとに、自ら追求し、友の表現と関わりながら学習を進めていけるよう配慮がなされている。 (4) 巻末に美術の知識理解を深める「学びの資料」が掲載され、ページ下部にある注釈と関連付けられるよう配慮がなされている。 (5) 立体作品を写した図版が示されたり、参考としたいときに二次元コードが活用できるような場所に配置されたり、制作過程に応じて表現や理解を深められるように配慮がなされている。 (6) 各題材の始めに育てたい3観点に関連させた学習の目標が示され、生徒が学びを振り返り、言葉で表現したり、表現の広がり気付いたりできるように工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校美術の全体像、領域ごとの意義、各題材の目標など学習活動が整理され系統的に構成されている。 ・ 題材ごと、共通の体裁や構成となっており、学び方の習得や主体的・対話的で深い学びにつながるよう配慮がなされている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">光村図書（美術）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末には多様な表現や道具、制作の手順も掲載され、生徒が知識及び技能を習得する手助けとなるよう配慮がなされている。 ・ 各題材で鑑賞活動を設定したり、生徒の制作過程を紹介したりして、生徒が発想や構想を広げられるよう配慮がなされている。 ・ 作家や生徒の言葉から、美術を愛好し、学んだことを人生や社会に生かそうとする態度を養えるよう配慮がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 図画工作との接続を意識し、各学年での発達段階に応じた材料や道具を取り上げたり、個人差に応じて幅をもたせた表現方法を紹介したりするなど表現しやすいよう配慮がなされている。 (2) 発想構想の段階では、多様な手立てを写真で例示し、生徒による制作過程を「みんなの工夫」として紹介し、生徒がイメージを膨らめられるよう工夫がなされている。 (3) 各題材の初めに身近な作品やデザインを示すことで、関心を高め、問いかけの言葉で鑑賞活動を促すことで、自分自身や生徒同士の対話を通じた活動ができるよう工夫がなされている。 (4) 資料の中で、取扱いが危険な道具については、注意喚起マークで注意を促すよう配慮がなされている。 (5) 題材ごとに写真や図版の配置や構成が統一され、図版の間隔を空けたり、原寸大の図版やユニバーサルデザインフォントを用いたりして配慮がなされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 1年では身近なものに関わり造形活動を楽しめるようにし、2・3年ではより自分の内面と向き合ったり生活や社会との関係に視野を広げたりできるよう配慮されている。 (2) 各題材において初めに鑑賞を位置付け、制作過程でも作品を比較して鑑賞できるように多数の写真が掲載され、最後に鑑賞を再び位置付け、学びを振り返られるよう工夫がなされている。 (3) 生徒同士での対話や、作品を比較できる鑑賞などにより、表現や文化の多様性を知り、造形的な視点をポイントとして示し、作品に対する見方や感じ方を広げられるよう配慮がなされている。 (4) 別冊に、「材料」「用具」「技法」「形」「色彩」などが細かな項目で分けられ、複数の具体物を例示しながら解説されている。 (5) 日本画を鑑賞するページに和紙のような紙を使い、風合いを確かめられるようにしたり、二次元コードへ導く言葉を定位置に掲載したりして、生徒が実感を伴って学べるよう工夫がなされている。 (6) 各題材の題材名の下に、3観点の目標が短い文章で示され、まとめの鑑賞で目標に示されたことを振り返って考えられるよう工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「美しい」をテーマに身近な作品を掲載し、生徒に語りかけて、鑑賞を促し、美術への関心が高まるよう工夫がなされている。 ・ 学び合う生徒同士の姿や、生徒の制作過程を多く掲載し、授業を具体的に想像できるよう工夫がなされている。

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">日本文教出版（美術）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各題材や用具の扱いについて「学びを支える資料」が各巻末に紹介され、追求をより深めていけるよう配慮がなされている。 ・ 多くの作品や写真、「作者の言葉」から見方や感じ方を広げ、造形活動ができるよう配慮がなされている。 ・ 美術での学びに関連した作家などの言葉に触れ、生活や社会の中で美術を生かし創造できるよう配慮がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 1領域の中に、各学年の発達段階に応じた表現活動が紹介され、使用されている材料なども複数取り上げて、生徒の興味や関心に広げて、表現方法が選べるよう配慮がなされている。 (2) 生徒の表現の意図や追求の道筋を、「作者の言葉」や制作中の具体的な生徒の姿で紹介することで、新たな発想を得ながら、造形活動が行えるよう工夫がなされている。 (3) 「作者の言葉」や「表現のヒント」で、いつでも主題や表現方法について振り返ることができ、主体的・対話的な活動に役立つよう工夫がなされている。 (4) 巻末には用具の安全な使い方について、図や写真、注意喚起マークによって視覚的に分かるよう配慮がなされている。 (5) 文字はユニバーサルデザインフォントを使用し見やすいよう工夫がなされ、中央見開きのページなどでは、美術作品を原寸大に近い大きさと掲載する配慮がなされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各学年で扱う内容が1冊ずつに示されており、3冊を通して系統立てられた各学年ならではの題材構成で、2年時と3年時の違いが意識できるよう配慮がなされている。 (2) 図版や写真は学習に応じたものが紹介され、題材の目標の中には表現活動に鑑賞が含まれている事が分かる記述がされており、表現と鑑賞が一体的に学習できるよう工夫がなされている。 (3) 各題材のページごと、図版から気付いて欲しい点が問いかけの言葉で「造形的な視点」として設定され、生徒自らが見方や感じ方を広げられるよう配慮がなされている。 (4) 各冊の巻末に各学年の題材に対応した技法や材料に関する資料が掲載され、思いを具体的に表現できるよう配慮がなされている。 (5) 白を基調としたデザインは作品を生かすように工夫がなされ、表現の手助けが必要なときにアクセスできるように二次元コードが配置されるなどの配慮がなされている。 (6) 3観点に合わせた「学びの目標」により、目標に照らして生徒の追求を振り返られるように工夫がなされている。発想・構想と鑑賞を往還しながら活動することができるよう配慮がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分冊による学年ごとの題材構成で、大きな図版を用い、生徒が興味をもって主体的に学べるよう工夫がなされている。 ・ 図版を指した具体的な問いかけで「造形的な視点」が示されており、追求をより深めていけるよう工夫がなされている。